

## 第1回 桐生市立小中学校適正規模・適正配置審議会 議事録

○日時 令和3年7月6日(火) 午後2時～午後3時40分

○場所 桐生市役所 議事堂 2階 正庁

### ○出席者

#### 【桐生市立小中学校適正規模・適正配置審議会】14名

会長	金井 昌信
副会長	朝倉 富美夫
委員	瀬谷 茂
委員	台 善一
委員	増山 大祐
委員	野村 篤
委員	糸井 近夫
委員	池末 晋介
委員	関 美佳
委員	丹羽 康博
委員	谷 滋
委員	新保 和孝
委員	尾池 武
委員	外山 光男

#### 【桐生市教育委員会】11名

教育長	小林 一弘
《事務局》	
教育部長	西場 守
教育部参事	飯泉 尚士
教育部総務課長	小山 貴之
教育部学校教育課長	柴塚 雄太
教育部教育支援室長	渡邊 真宏
教育部生涯学習課長	藤川 恵子
教育部教育未来室長	原橋 貴史
教育部教育未来室教育未来係長	千葉 敦弘
教育部教育未来室教育未来係	寺島 達也
教育部教育未来室教育未来係	大澤 豊

【傍聴者】 0名

【報道機関】 2社

## ○議事の概要

### 1 開 会 [開始：午後 2 時 00 分]

### 2 委嘱状等の交付

- ・小林教育長から委員へ委嘱状等を交付

### 3 教育長あいさつ

- ・桐生市教育委員会 教育長 小林 一弘  
皆様、こんにちは。

本日は、お忙しい中、第 1 回桐生市立小中学校適正規模・適正配置審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

皆様には、日頃から教育行政の推進をはじめ、市政の各般にわたり、ご理解とご協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。また、この度は、本審議会の委員を快くお引き受けいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

さて、全国的に少子化が進む中、桐生市においても、児童生徒の減少に伴い、小中学校の小規模化が進行しており、教育環境や学校運営などに様々な影響を及ぼすことが懸念されています。

また、国では、いわゆる 35 人以下学級編制に関する法律の改正、群馬県においても、「ニューノーマルぐんまクラスプロジェクト」による、少人数学級に関する取組の充実を図るなど、社会情勢の変化に伴い、教育制度も大きく変化しています。

このあと、担当からご説明させていただく資料にもありますように、今から約 30 年前、私が相生中学校で軟式テニス部の顧問として真っ黒になっていた当時の中学生、その子たちが生まれた 1975（昭和 50）年頃の桐生市の出生数は、約 2,200 人でした。それが昨年 2020（令和 2）年の出生数は、約 450 人であり、当時の約 20%、約五分の一となっています。特に最近の 5 年間でみても、2015（平成 27）年の出生数が約 600 人でした。それが 5 年後の昨年 2020（令和 2）年の出生数約 450 人へと、この 5 年間で更に約 150 人、25%が市全体で減少しています。この減少が数年後の小学校の児童数に影響してきます。

このような状況を踏まえ、桐生市におきましても、より良い教育環境の構築と質の高い学校教育の実現を目指し、小中学校における学校規模の適正化や将来を見据えた学校配置の在り方、少子化に対応した魅力ある学校づくりなどについて、幅広い観点から検討する必要があると考え、本審議会を設置する運びとなりました。

皆様には、第 2 期桐生市教育大綱の基本理念である「桐生の未来を担い、世界に羽ばたく人づくり」を実現するため、それぞれのお立場から専門的な知識や経験を生かした様々なご意見を賜りますようお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

### 4 自己紹介

- ・委員及び事務局自己紹介

### 5 会長及び副会長の選出

- ・委員の互選により、会長に金井昌信委員、副会長に朝倉富美夫委員を選出

## 6 諮 問

- ・小林教育長から審議会（会長）へ諮問

## 7 議 題

- ・議事に入る前に、事務局から、過半数以上の委員の出席により、会議が成立することを報告。
- ・議事進行は、桐生市立小中学校適正規模・適正配置審議会条例第 6 条の規定により、会長が議長を務める。

### (1) 桐生市立小中学校適正規模・適正配置審議会運営要綱（案）について

- ・資料 3 に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、特になく、原案のとおり承認。

### (2) 桐生市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針の策定について

- ・資料 4～資料 8 に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発 言 者	発 言 内 容
議長（会長）	ただ今、事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見などがありましたら、挙手をお願いいたします。特に、決めることは何もなく、皆さんが感じるところをご発言いただければと思いますので、忌憚のないご意見をよろしくお願ひします。いかがでしょうか。
議長（会長）	では、私から幾つかよろしいですか。令和 9 年度までは、ある程度、推計値と言いつながらもほぼ正確な予測値になっていると思うのですが、どこかの小中学校で、複式学級になるようなことはありませんか。クラス数や児童数は、表にまとまっております、複式学級もあり得るのかなという数の学校も見受けられるのですが、そこまで細かい予測はしていないですか。
事務局 (教育未来室長)	現状のところ、まだそこまでは精査してないところですが、複式学級については、今以上に増えるものと考えています。
議長（会長）	ありがとうございます。基本方針を決めていく時には、最低の児童数と生徒数について、このぐらいのクラスでやりましょうというように、上側ばかりでなく下側も議論する必要があると思います。その際には、最低限、複式学級は避けたいといったようなことを考えなければならないのかなと思ひ質問しました。もう一点、現状、桐生市の小中学校は、住所により学区内と学区外に分かれていて、学区内の学校しか選べないのでしょうか。学区をまたいで学校を選ぶことはできますか。
事務局 (学校教育課長)	基本的に学区が決められており、その学区内の学校に通うことになっていますが、事情で他の学校に通うことも、教育委員会に申請をいたひいて、認めているところです。
議長（会長）	ありがとうございます。申請して許可してもらうための理由について、そのハードルは高いのですか。

発 言 者	発 言 内 容
事務局 (学校教育課長)	現状は、ご両親の仕事のご都合などが、主な申請の理由となっています。
議長（会長）	他にございますか。
委員	この基本方針の策定については、期間の定めはあるのですか。例えば、向こう10年間を一つの目標期間とするとか、第2期桐生市教育大綱等との整合について書かれているところもありますが、基本方針の計画期間的なものについてお尋ねします。
事務局 (教育未来室長)	基本方針の計画期間について、具体的に何年間ということは、今のところありません。しかしながら、他市の事例などを見ますと、短期間ではなくて一定の期間、例えば10年あるいは20年という期間を視野に入れる必要があると考えています。
委員	そうしますと、この審議会でやらなければならない仕事の一つとしては、当面は向こう10年間ぐらいを一つの期間と想定をして、色々な議論をすることになるのでしょうか。
事務局 (教育未来室長)	審議会では、全市的な、また、長期的な視野に立った議論をお願いさせていただきました。事務局の説明にもありました通り、個別・具体的な枠組み等ではなくて、人口推計を見る中で、将来的に学校の適正な規模はどの程度にするのか、またそれに伴う学校の配置の在り方、そして、少子化の進行が想定される中で、子供の教育環境や教育条件を改善し、向上させるための魅力ある学校づくりというのは、どのようなものかについて、一定のご見解をまとめていただきたいと考えています。
議長（会長）	委員のご指摘は、とても重要で、ここで決めたことが、もしかしたら10年もたないかもしれない。折角、決めた基準もこれだけ急激に減少することを考えると、期間についても議論した方が良いかもしれないということですよね。とりあえず5年、6年とか9年とか。貴重なご意見どうもありがとうございました。他にございますか。
委員	先ほど、議長から越境入学についてお話がありましたが、それに関連して、市P連の会長会議でも一度話題になりました。親御さんのご希望があるパターンとしては、一つは部活動があります。小学校時代にクラブチームなどで一生懸命取り組んでいたけれど、進学予定の学区内の中学校にその部活が存在しない場合に、他の中学校の部活に行けないのかということがあり、現状であると難しいといったことがありました。そのことが、そもそも認められるのかということが一つ、また、この審議会の目的は適正規模ということですが、他の中学校の部活に行けるかは、この審議会の話と全然別の話になってしまうのか、ここで話すべきものではないのかを教えてくださいたいと思います。
事務局 (学校教育課長)	部活動に関して、学区外の就学を認めるということは、現在、桐生市では行っていません。

発言者	発言内容
事務局 (教育未来室長)	委員からご指摘の学校区の問題につきましては、非常にデリケートであり、また、児童生徒の通学条件を考慮することが必要な問題でありますので、そういったことも含めてご議論いただくことになると思います。適正規模・適正配置の検討の事例などを見ますと、児童生徒の通学距離の延長に伴う教育条件の問題もあります。児童生徒の負担や安全などを考慮し、地域の実態を踏まえた議論の上で、学校区の問題については考え方をまとめていただければと考えています。
委員	確認ですが、ここで答申等をまとめる場合に、他の学区に通うという考慮は基本的にはせずに、規模とかに関してここで話し合っていく、そういうふうな考えれば良いのでしょうか。
事務局 (教育未来室長)	その問題につきましては、これからご意見をいただき、その中での課題であると思うのですが、まずは、学校の規模であり、学校の規模を考えた時に、学校の配置の在り方がどうなるか、そして、その先に学校区の問題というような課題があると考えています。様々なご意見を頂戴しながら議論し、ご審議いただきたいと考えています。
議長（会長）	触れないと決めてしまうのは、もったいないような気がします。適正配置を考える際に、端の方に位置し、通学距離が非常に増えるような場所があり、どうしても統廃合できないとなると必ず規模が小さくなります。でも、ご指摘いただいたような中学校の部活問題はかなり深刻なので、それもセットで適正配置案を作るとか、小さくなって不便だから、まちなかの学校に出てきたいというようなこともあると思います。例えば、来年度から黒保根の小中学校は一貫校になり、英語教育を推進すると聞いたことあるのですが、そういう少人数でユニークな学校教育している学校に行きたいと言って、まちなかの親御さんが黒保根の小中学校に行きたいということもあるかもしれない。そういうことも、全部まとめて議論しないと、小さくなってしまふ学校ほど、その地域特有の特色を生かした教育をセットで考えなければならぬ。そうすると、それに惹かれる人が、そこに行けないのではもったいないと思うので、是非、そこまで含めて審議させていただけるとありがたいと感じました。ご検討ください、よろしく願います。
議長（会長）	他にございますか。
委員	国では、学級編制の標準が40人から35人になり、群馬県のプロジェクトでは、1・2年生は30人以下で、3・4年生は35人以下であり、国と県に差があります。そういった中で、桐生市は、群馬県内でも少子高齢化が進んでおり、消滅可能性都市という言葉も使われることがあります。桐生市は、他のまちよりも進んでいると思っており、群馬県と足並み合わせるのではなく、よく「桐生ならでは」や「桐生らしく」と言いますが、「桐生らしさ」を出して、もっと少人数でクラスを編成することを考えても良いのではないかとと思うのですが、いかがでしょうか。

発 言 者	発 言 内 容
事務局 (教育未来室長)	<p>貴重なご意見、ありがとうございます。先ほどの学区の問題と同じですが、教育委員会が、この審議会を設置させていただいた時に、考え方のスタンスとして、議論はゼロベースからと考えています。しかしながら、基本方針を策定する段階で、制度の問題がありますので、具体的なことは、2回目以降の審議会の中で、事務局でも色々な調査をさせていただく中でご議論させていただくことかなと思います。</p> <p>本日、申し上げさせていただきたいことは、議論はこれありきという考え方ではなくて、ゼロベースで色々な見地や専門性を持っている皆様により議論をしていただければと考えています。その後のことも含めて、これからご相談しながら、制度論の話も含めて、最終的な結論づけのところをお願いしたいと考えています。</p>
議長 (会長)	一言でいうと、考えても良いということですよ。他にございますか。
委員	<p>学校教育に関するアンケートについてですが、配られている見本は、小学生保護者用ということですが、私には中学生の娘がいるので、中学生保護者用を一応持ってきました。それと見比べますと、教育委員会が作ったと思うのですが、どういう意図がまずこのアンケートにあったのかということと、見ていくと5番が一番重要なのかなと思うのですが、選びたい選択肢が3つ以上あっても2つしか選べないようになっています。小中を比較してみると、5番の「児童同士の人間関係が深まりやすく…」について、中学校版は、ただ「児童」が「生徒」に変わり、その他も「クラブ活動や委員会」が「部活動」に変わっているだけで、小中に配った割にはあまりにもアンケートの内容がずさんかなという感じを受けました。他にも、最初の学校を選んだ時点で、児童の学級数は、本来、教育委員会が把握しているにも関わらず、そこをまた選ぶところがあり、何かを誘導しているアンケートに近いような印象を受けるのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局 (教育未来室長)	<p>アンケートにつきましては、色々なモデルケースを参考にしており、マークシート方式で実施し、最終的にはソフトで集計する部分があるため、スタイル的にはそのような形の部分も一つあります。また、このアンケートの調査意図につきましては、基本的に市として、こういう風にしてもらいたいという意図で、誘導しているスタンスはありません。まずは、今、通われている学校、通わせることになる学校について、どのような印象をお持ちであるかという現状の印象とその問題について、アンケートの記入をお願いしています。</p>
委員	<p>まず、このアンケートを作る段階で、小学校1年生から6年生までで、年齢にかなり幅があり、中学校は1年から3年の3学年であると思うのですが、保護者側から見ても小学校と中学校を一つにしましょうという話であれば、同じアンケートみたいな形でも良いのかなと思うのですが、もう少しこの年齢層が幅広くあれば、この5番に関しては、もう少しきちんと精査して、それでアンケートを作るべきであったのではないかと強く思います。3つ以上あり、どうしてもこの中で絞れない場合があっても、2</p>

発言者	発言内容
委員	つに絞rinaさいというもので、アンケートの作り方が、折角やるにははもったいないかなと思いますが、もう一度お願いします。
事務局 (教育未来室長)	教育委員会としましては、それぞれの意見について、ある程度焦点化するために、2つといった形で絞らせていただいた経緯もあります。確かに、色々なご指摘もありまして、どのような聞き方をしたら良いのかについては、非常に考えたところです。ご指摘も踏まえながら、ご意見につきましては、今後の参考にさせていただきたいと考えています。
委員	アンケートについて、皆さんには、小中で特に5番のところみたいな重要なところ、あとは調べれば分かるアンケートであること、児童が生徒、部活動がクラブ活動になっているアンケートであることを覚えていただいて、上がってきたものに対して、また議論するという形でよろしいということでしょうか。
事務局 (教育未来室長)	はい、よろしく願いいたします。
議長（会長）	他にございますか。
委員	アンケートの関連ですが、入学予定の家庭にも、アンケートは配られるのですか。これもまた様式があるのですか。
事務局 (教育未来室長)	来年4月に小学校に入学するお子様の保護者にも、アンケートをお願いしています。これとは少し設問数が違いますが、同様な形でアンケートのお願いしています。
委員	3種類あるということではよろしいですか。小学校用、中学校用これから入ってくるご家庭用という理解でよろしいですか。
事務局 (教育未来室長)	保護者のアンケートにつきましては、未就学児、小学生、中学生と3種類のアンケートをお願いしています。その他、教職員と小学生・中学生にお願いしています。
議長（会長）	どんな形で集計結果が出てくるかは分からないのですが、折角なので属性別に出していただいた方がよろしいかなと思います。一応、アンケート等を色々なところでやらせていただいています。これ見る限り、やりたいことが伝わってくるかなと感じています。現在の児童数が、被験者によって違うので、今の児童数に対して満足しているかどうかを聞くことで、どれくらいが良いと思われているのかを把握する。5番のように何を考慮するのかで、例えば、きめ細やかな指導を求めますという人が多ければ、クラスや児童数が少なくてもそのまま残しましよとなるし、切磋琢磨を希望する人が多ければ、それなりにクラス数の多い学校にしてあげないとそれはできないということを小学校と中学校の親別にやれば、中学校でそれを求めて、小学校はそれ求めているという結果が出るのがわかる。集計結果が出てきた段階で、ご指摘いただいたところはしっかり皆さんで確認していただければと思います。ただ、アンケートのやり方として、複数回答で個数を絞らないと、意識の高い親御さんは全部丸をつけてしまうの

発 言 者	発 言 内 容
議長（会長）	で、結局、何が大事か分からなくなるから 2 つか 3 つに絞るやり方自体は、それほど突拍子もなく、おかしいなやり方ではないように個人的には思います。なお、付け加えさせていただくならば、小学校の保護者が小学校に対して求めているのか、中学校に対して求めているのか、これだと分からないように思います。その点は、集計が少し難しいかなと思います。ご指摘、どうもありがとうございました。
議長（会長）	よろしいでしょうか。特にないようでしたら、この件については終わりにさせていただきたいと思います。事務局に用意していただいた本日の議事は以上になりますが、その他に委員の皆様から全体を通じて、何かご意見等ございましたらお願いします。
委員	次回の会議の時は、資料は事前にいただくことはできませんか。
事務局 (教育未来室長)	資料につきましては、本日は 1 回目の会議であるため、机に置かせていただきましたが、できるだけ事前に配布し、ご覧いただいた上で、会議に出席いただけるようにしたいと考えています。
議長（会長）	是非、よろしくをお願いします。他にございますか。
委員	今日の審議会のタイトルとは違うのですが、市立には桐生市立商業高校が 1 校あり、この商業高校について今後どうしましょうという議論も進んでいるのですか。
事務局 (教育未来室長)	商業高校につきましては、現在のところ、具体的に今後のことについて、特に検討はしていないといったところです。
委員	なぜお伺いしたかという、今回は小中学校の適正配置・適正規模等の検討ということですが、例えば、中高一貫校といったことは、県内でも既に公立は少なからず全国的に見ても進んでいます。そういうことも視野に入っているのかということをお伺いしました。
事務局 (教育未来室長)	この審議会は、市内における少子化の進展が著しいことから、公立の小中学校を対象にしており、小中学校がこれから小規模化する中で、子供の教育環境について、今後、重大な影響等があるということで議論をお願いしているところです。 ただ、委員ご指摘の件につきましても、これからの教育環境という観点であり、先ほど申し上げましたようにゼロベースですので、ご意見を拝聴させていただきたいと考えています。まずは、公立小中学校のこれからの在り方をベースに、この審議会の調査審議をいただければと考えています。
委員	委員の話に関連して、桐高と桐女、南高校と西高校が合併する時に、群馬県としては、桐生工業高校と桐生商業高校を一緒にして、商工を目指すというような話があったように思います。ただ、群馬県立と桐生市立の違いがあるので、その調整が難しいと聞いた覚えがあります。
議長（会長）	ご指摘、ありがとうございます。また、情報共有、ありがとうございます。他にございますか。



発 言 者	発 言 内 容
委員	<p>今回のアンケートは未就学児の保護者も対象ですが、これに関連して、幼小中の一貫校を検討するべきなのかなというように、個人的に思っています。今、公立幼稚園も子供が少なくて問題を抱えていると思います。また、保育料について、保育園と公立幼稚園がほぼ一緒であるとお聞きしたので、幼稚園・小学校・中学校という形、いわゆる一貫校を検討してもらえると良いのかなと思います。</p>
議長（会長）	<p>ありがとうございます。是非、またご提案いただければと思います。他にいかがでしょうか。事務局からも説明があった通り、ゼロベースでということですので、まず、委員の皆さんの思いをご披露いただいて、皆さんで相談して答申という形でまとめていければと思いますので、是非、今回のような議論を引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは、本日予定しておりました議事は以上になりますので、ここで議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p>

## 8 その他

- ・第2回審議会の開催予定等

## 9 閉 会 [終了：午後3時40分]